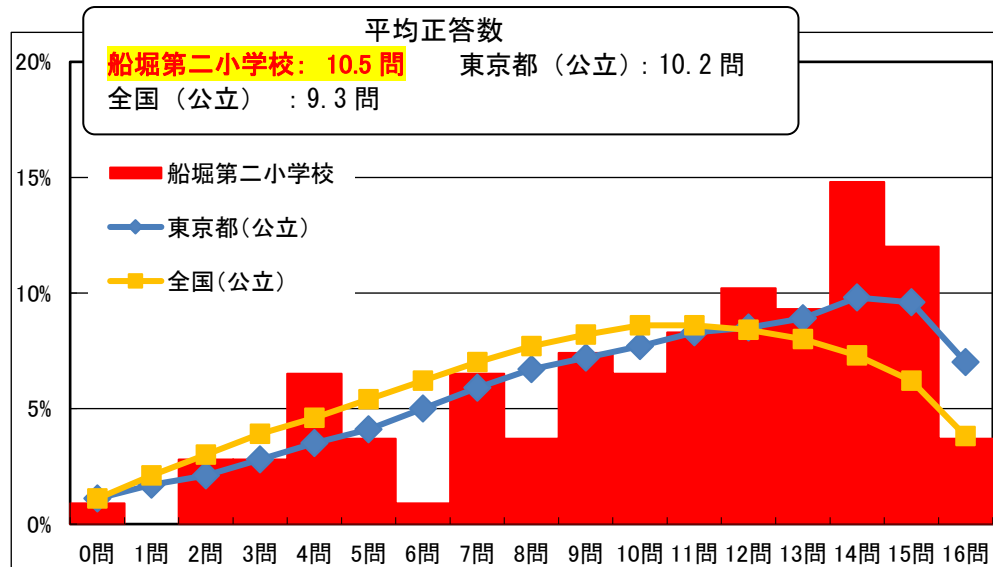


令和7年度 全国学力・学習状況調査結果と改善に向けて【算数】 船堀第二小学校

正 答 数 分 布



<四分位における割合(都全体の四分位による)>

算 数	上位 ← 下位			
	A層 14～16 問	B層 11～13 問	C層 7～10 問	D層 0～6 問
船堀第二小学校	30.5	27.8	24.1	17.6
東京都 (公立)	26.4	25.7	27.5	20.3
全国 (公立)	17.3	25.0	31.5	26.3

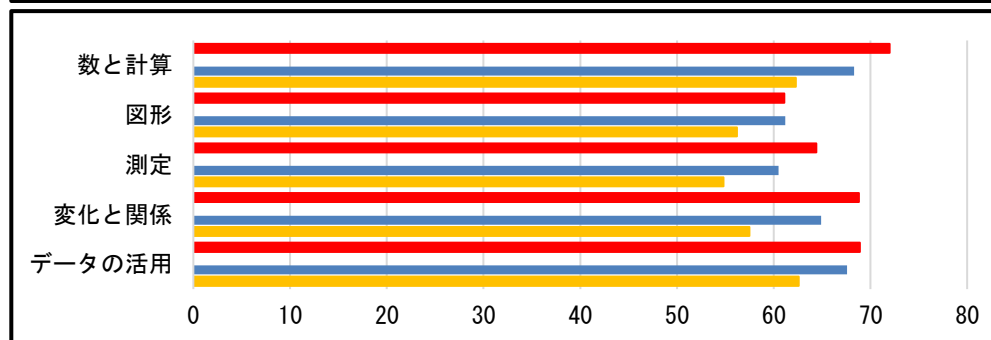
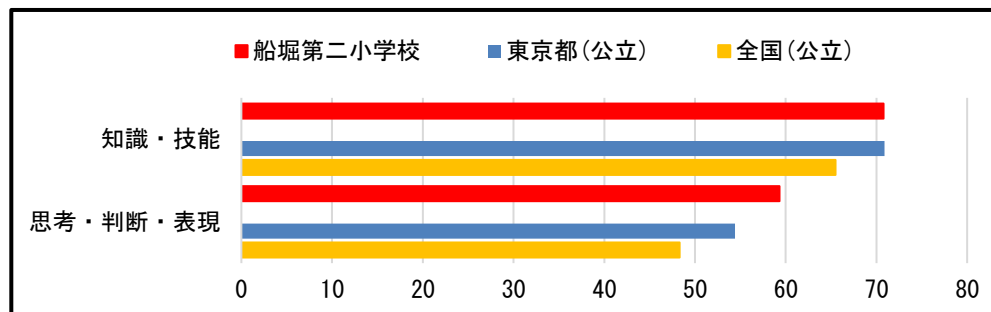
【平均正答率の差】

船堀第二小学校	66%
東京都 (公立)	64%
全国 (公立)	58%
都との差	2ポイント

%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都 (公立) のデータを基に定めている。

「領域別」の結果



【分析結果と授業改善に向けて】

正答数が低かった問題は、次の通りであった。

- 3 (2) 「分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加数と被加数が、共通する単位分数の幾つかを数や言葉を用いて記述できるかどうか」
- 1 (2) 「棒グラフから項目間の関係を読み取り、条件に当てはまることを言葉と数を用いて記述できるかどうか」
- 2 (1) 「平行四辺形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図することができるかどうか」

これらの問題の誤答を分析すると、もとにする数をその数の何個分かを理解し、それを基に説明する力、表やグラフから適切なデータを用いて説明する力、平行四辺形の構成要素を多面的にみる力に課題があることが分かった。

こうした課題に対して、1, 10, 100, さらに大きい数、0.1 や $\frac{1}{10}$ など、何を単位として計算しているかを学年に応じて段階的に指導することに、学校全体で取り組んでいく。基礎基本の習得に加え、教科の本質を捉えるための教材研究、授業改善を推進する。